



第5部

基本構想

平成30(2018)年12月25日議決

- 1 まちづくりの基本認識 …… 158
- 2 10年後の将来都市像 …… 160

基本構想



「生まれて良かった、
住んで良かった、帰ってきたい、
住んでみたい」と思える元気な
竹原市の実現を目指します。



まちづくりの 基本認識

市 民一人一人が、住み暮らしているまちに“誇り”と“愛着”を持つことは、このまちに住み続けたいという思いを掻き立てるだけでなく、まちをより良くする取組への参画や積極的なまちの発信など、地域主体のまちづくりを活性化し、まちの賑わいや活力の維持・向上につながります。

また、貴重な地域資源を活かした、まちの“個性”や“魅力”は、多様な人々を惹きつけ、訪れる人や住んでみたい人など、市域外からの新たな人の流れを生み出し、まちの賑わいや新たな活力の創出につながります。

こうした観点から、本市が、「誇りと愛着を持てるまち」、「個性的で魅力あるまち」を目指し、急速な少子・高齢化と本格的な人口減少が進行する中でも、持続可能な都市となるよう、基本理念を以下の通りとして、まちづくりに取り組みます。

基本理念

『市民一人一人が、竹原市に“生まれて良かった”“住んで良かった”と実感し、進学や就職等で竹原市から転出した人や竹原市にゆかりのある人、竹原市に関心のある人が、“帰ってきたい”“住んでみたい”と思える“元気な竹原市”の実現』

まちづくりの基本的視点

本市では、まちづくりをけん引する多様な人材が活躍しており、また国内外に誇れる多くの地域資源があります。

まちづくりを進めるにあたっては、これらの“**本市の財産**”を最大限に活かして、まちの個性や魅力の創出を図ります。

① 人を活かす

本市を支える多様な人たちやその人たちの活動は、まちづくりの根幹をなす財産（強み）です。

これまで本市が推進してきた、市民、各種団体、民間企業など、多様な主体との協働のまちづくりを基盤に、年齢や性別などに関わらず、多様な人たちの発想力や行動力、知恵、経験などを更に活用し、本市を応援してくれる人たちとも連携しながら、力を結集して、“**元気な竹原市**”を実現します。

② 地域資源を活かす

本市が有する自然、歴史・文化、景観など豊富な地域資源は、国内にとどまらず、海外にも誇れる財産（強み）です。

将来にわたって、自然を守り、歴史・文化を継承するとともに、価値を高め発信することで、人の流れを生み、賑わいのある“**元気な竹原市**”を実現します。



竹原市の主な地域資源

- 歴史的価値を高く評価された町並み保存地区、
 - うさぎで世界的に有名となった大久野島、
 - 江戸時代から受け継がれる酒造文化、
 - 地元産の食材を使った郷土料理、
 - 自然海浜保全地区に指定された忠海長浜の海岸 など
- 多彩な地域資源があります。

本市の特色を活かし 住みやすさ、暮らしやすさに 磨きをかけ、暮らしの満足度を 向上させます。

2 10年後の 将来都市像

本市は、江戸時代に、少雨で温暖な瀬戸内の気候と賀茂川が造り出す地形を利用した製塩業を基幹産業とし、明治時代には、豊富な地下水と港に集まる米を利用した酒造業を塩と並ぶ産業として飛躍させるなど、自然、気候、地質、地形、立地条件などを巧みに組み合わせ、発展してきました。

また、時代の変化に合わせ、昭和初期には、基幹産業であった製塩業から重工業などへ産業構造の転換を図るとともに、塩田跡地に市街地を広げ、職と住まいを提供し、暮らしやすさを意識したコンパクトなまちを造り上げてきました。

このように、地域資源を活かし、時代の変化に柔軟に対応したまちづくりを行うことができた背景には、頼山陽の父である頼春水をはじめ竹鶴政孝や池田勇人など、地域を支え、世界で活躍する、幅広い人材を輩出する“文教の地”で育った人々の力があったからと言えます。

これまでの歴史が示すとおり、急速な少子・高齢化と本格的な人口減少社会の到来や経済のグローバル化の進展など、社会経済情勢が大きく変化する中においても、人々の力と地域資源を活かしたまちづくりを行うことにより、賑わいや活力を維持・向上させ、持続可能なまちを実現できると考えています。

本市には、互いに顔が見える人と人とのつながりや支え合いのコミュニティ、美しい瀬戸内の自然や季節感、ゆったりとした時間の流れや歴史、快適に日常生活が営める利便性の高いコンパクトな市街地など、“住みやすさ”“暮らしやすさ”につながる多くの特色があり、第5次竹原市総合計画においても、“住みよさの実感”を目指して取り組んできました。

また、社会状況が変化する中で、価値観の多様化により、大都市圏からの移住志向や生活の質を重視する意識が高まってきています。

こうしたことから、引き続き、本市の特色を活かして“住みやすさ”“暮らしやすさ”に磨きをかけ、暮らしの満足度を向上させることにより、基本理念で掲げるまちづくりを展開することとし、10年後の都市像を次のとおり設定します。

元気と笑顔が織り成す
暮らし誇らし、竹原市。

”元気“は、
市民の誰もが「いきいきと活躍する姿」と
本市の魅力を活かした
「交流や産業による賑わうまち」を表現しています。

”笑顔“は、
市民の「安全・安心で快適な心地いい暮らし」と
「互いに支え合う優しさ」を表現しています。

あふれる元気と輝く笑顔が、幾重にも重なり、
市民一人一人が”たけはら暮らし“が”誇らしい“と思う。

本市は、
「生まれが良かった、住んで良かった、帰ってきたい、住んでみたい」
と思える元気な竹原市の実現に向け、
『誰もが住みやすいと実感し、誇らしく思えるまち』を
目指します。



